

## 編輯室の内外

花の世界も終末季となつて落花紛々窗外の風景は一轉せんとする、一日の行楽の閑をも得られざる編輯事務に従ふの身轉た「世のなかに絶えて櫻のなかりせば春のころはのどけからまし」との業平朝臣を偲びつゝ、五月號を期日迄に刊行せんとして努めたる所であつた。

帝國議會創設以來十六回目の解散は第七十議會の最終日に青天の霹靂の如く發布せられた。政府側では政黨の横車の結果であると發表し政黨側では非立憲的行為であると憤怒して居る、併し政黨をして死中に活動をめぐらむ更生の試練なりと解するに於て大に意義な解散であつて、ながら政黨人は憤怒すべしものでない、則ち政黨の更生に依つて政治が憲政道に復するや否は政黨側の認識如何に存するのである、今や當選者は決定せられた、其の分野は明かであるが政黨人の意氣や認識や如何。民間機「神風」が東京ロンドン間一萬五千キロを九十四時間十七分五十五秒で完全に征空し、其の機能と飛行士の優秀なる技能には世界人に驚異の眼をみはらしめた、此成績は日英親善の上にも大なる楔子となつたのみでなく、世界各國民に日本の文化を認識せしめたるの功果をもたらしたのである、蒼穹の金字塔に對し西條八十の歌を見

る。光は昇る東より、美しいかな「神風」が世界の空に抛ちし、日本櫻の花吹雪。と。

爲替管理法の實施以來、輸入許可の遷延は海外諸國の間断なき輸出値段の引上げと相俟て鐵鋼輸入を益々困難ならしめ、國內需給の破綻愈々擴大された、政府は此鐵鋼飢餓の現狀を視、四月十五日勅令一三〇號を以て特殊鋼を除く外の鐵鋼輸入税を昨年三月二十一日迄免除する旨緊急勅令を發布せられた、六萬十菊の憾なきにしもあらねども暴利取締令の施行とともに國民の悲鳴を緩和する所あらしめねばならぬ。鐵钢材置場や軌條布設地に晝夜哨をして監視せしめたり海底に屑鐵を探つたりゴミ溜を搔き亂だしたりの鐵材狂時代の異風景を一日も速かに消滅せしむることが爲政者の責任である。

一石二鳥の自動車即ち鐵路と街路と兩方を走る自動車が北米ミシガン湖デトロイトのラセル・ド・ウォルフ・ラスマンといふ人によつて工夫された、此自動車は八つの車輪があつて、そのうち四つは鐵路用の鋼鐵製。他の四つが謹慎輪の街路用になつてゐて、此の二組の車輪は、自由にあげたり、下げたりすることが出来るやうになつてゐる。それで鐵道線路の上になると、その謹慎輪を上にあげると共に、鋼鐵車輪を下し

走るが、レールがなくなつて街路に差掛る

と、今度は鋼鐵車輪一組をガチリと上にあげて謹慎輪一組を下におろし、此四つの車輪で普通の街路を颶夷と疾驅する。つまり鐵道の外に自動車道路のないところで、も、自由に走れる譯である。

十二年度の國の豫算は愈々本極りとなつて既報の如くである。即ち其の新規經費の主なるものは一、特殊國道改良費（軍事國道の改良に要する經費で全額國費）四五萬圓二、府縣道改良費補助（國庫補助率三分の一）一四五萬圓三、直轄國道改良費（地方費負擔額三分の一）三八二萬四六五七圓四、關門隧道調査費三〇萬圓で其の外國道改良繼續費一〇〇萬七〇〇〇圓であるとの事である。當局者の溌勵努力を懇望する。（逃）

|                   |              |                  |         |
|-------------------|--------------|------------------|---------|
| 定 價 一 部           | 五            | 十                | 錢       |
| 一ヶ年 分             | 金            | 六                | 圓       |
| 東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内 | 社團           | 道                | 路 改 良 會 |
| 發 行 所             | 法 人          |                  |         |
| 編 輯 者             | 東京市小石川區諏訪町五六 | 電 話 銀 座 (57) 四二七 |         |
| 印 刷 所             | 常 磐 印 刷 所    |                  |         |
| 奈 良 直             | 島 效          |                  |         |